

総合的な学習の時間 「手話体験」

綾瀬市立綾瀬小学校



単元（題材）目標

○講話や体験を通して、様々な障がいについて理解を深め、自分たちができることを考える。

（1）実施時期

10月実施

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 4クラス 143名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4名

外部講師：市内ボランティアサークル「あやの会」「聴覚障害者協会」



（4）実施内容

○講話と手話体験

- ・聴覚障がいのある講師と聴覚障がいのないボランティアが並び、誰が聴覚障がい者であるかを問うことで、見た目では障がいがあることが分からないことに気づいた。
- ・また、手話の「おむすびころりん」を通して、聴覚障がい者が日常使用している器具を知り、生活での工夫を知ったり、聴覚障がい者と意思疎通を図ったりする方法を知った。

（5）成果

- 子どもたちは、今回の手話教室を通して、聴覚障がい者の方と手話やジェスチャーなど様々な方法で意思疎通ができることを知った。また、手話体験を通して聴覚障がい者の方が、耳が不自由だけれど自分達と同じように生活していることに気づくことができた。このように、聴覚障がい者の方から直接話を聞くことで、本やインターネットだけでは分からなかったことに気付くことができた。また、手話を身近に感じることもできたようである。
- 聴覚障がい者の生活の仕方やその生活を支える道具について、実際に聴覚障がいの方から教えてもらうことができた。
- 児童の発達段階や学習内容を考慮して地域のボランティアサークルを活用することができた。